

# 皮膚科のトリビア

186

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

## ●第49回日本皮膚免疫アレルギー学会から

令和元年12月1日

### Sjögren症候群に伴う histiocytic Sweet

40歳代女性。Raynaud症状で初発。発熱とともに浸潤を触れる紅斑が体幹に生じた。その後も同様のエピソードを数回繰り返した。

抗核抗体2,560倍、speckled pattern。抗U1-RNP抗体高値。抗SS-A抗体は軽度高値。抗SS-B抗体は陰性。シルマーテスト陽性、小唾液腺生検でリンパ球浸潤を認め、Sjögren症候群と診断。

紅斑の皮膚生検では表皮の液状変性、核塵を伴うリンパ球、組織球の浸潤があり、histiocytic Sweetと考えた。

#### 一言コメント

「MCTDの可能性もあるだろうか。核塵は組織球由来と思われる。いわゆる膠原病に生じる病態だが、palisade neutrophilic granulomatous reactionとかneutrophilic urticarial dermatosisなど、類似する病名がいくつかあって鑑別がむずかしいと思う。」

## ●第49回日本皮膚免疫アレルギー学会から

令和元年12月1日

### 血中および水疱内のgalectin-7は SJS/TENのバイオマーカー

SJS/TENを生じた患者と通常の薬疹患者の末梢血単核球に原因薬剤を添加し、培養上清のプロテオーム解析を行い、SJS/TENのみに含まれる数個の蛋白質を同定した。

SJS/TEN、通常薬疹、健常者の血清を用いて比較したところ、galectin-7がSJS/TENで有意差をもって上昇していた。病変部水疱内容液でも顕著な上昇を認めた。

ステロイド治療後の血中濃度は低下しており、疾患活動性とも相関していた。

#### 一言コメント

「すぐ結果が出るのであれば、病初期の鑑別診断に利用できるだろう。水疱があれば内容液を検体として使えそう。時間のかかる壮大な仕事だっただろうと思う。」

●第49回日本皮膚免疫アレルギー学会から  
令和元年12月1日

## カルメロースによる アナフィラキシー

喉頭内視鏡, 胃内視鏡を行う際に用いたキシロカインゼリーによるアナフィラキシーの症例. いずれもリドカインを含む局所麻酔薬のプリックテスト, 皮内テストは陰性. 添加物であるカルボキシメチルセルロース(カルメロース)で陽性. 局所麻酔薬による即時型アレルギーと誤認されている症例も多いと推測される.

### 一言コメント

「ケナコルト注射後のアナフィラキシーでも含有されていたカルメロースが原因と同定された症例がある. バリウム造影剤や食品にも含まれているので注意が必要である.」

●第49回日本皮膚免疫アレルギー学会から  
令和元年12月1日

## ラミナリア桿による即時型 アレルギーは昆布が原因だった

もともと食物アレルギーのない女性. 子宮頸管拡張器(ラミナリア桿)挿入30分後に蕁麻疹が出現. 膨疹以外の全身症状はなし. 抗ヒスタミン薬でいったん軽快したが, 翌日も蕁麻疹が出現. ラミナリア桿の抜去とステロイドの全身投与で改善した. プリックテストではラミナリア桿で3+, 生昆布で3+. 昆布出汁と生ワカメは陰性. 昆布アレルギーと診断した.

### 一言コメント

「使用頻度の比較的高い医療行為なので, まれな症例だと思われるが, いろいろな原因があるものだと思う. 一応覚えておこう.」

●第49回日本皮膚免疫アレルギー学会から  
令和元年12月1日

## ドセタキセルによる 強皮症様皮膚硬化

70歳代男性, 前立腺癌に対してドセタキセル投与開始. 2カ月後に両側下腿に浮腫を生じ, 5カ月後から硬化が出現した. 硬化の範囲は徐々に広がり, 7カ月で10コースが終了した時点では腹部まで硬化が及んだ. さらに両上肢にも浮腫と紅斑が生じた. ドセタキセルによる皮膚硬化は疼痛と関節拘縮を伴ってQOLが低下した. 早期に中止しステロイド投与を行えば改善するが, 線維化が完成すると治療による改善がむずかしい. 早期診断が重要である.

### 一言コメント

「ちなみにドセタキセルの適応は, 乳癌, 非小細胞肺癌, 胃癌, 頭頸部癌, 卵巣癌, 食道癌, 子宮体癌, 前立腺癌である. これは早く気づいてあげないといけない.」

●第49回日本皮膚免疫アレルギー学会から  
令和元年12月1日

## オマリズマブ治療無効例は自己免疫 疾患が隠れている可能性がある

慢性特発性蕁麻疹でオマリズマブを導入した12例の集計. 効果があった症例が8例, 不良例が4例. 良好群は男性4例, 女性4例. 不良群は女性のみ. 不良群には自己免疫性肝炎, 甲状腺自己抗体陽性, 菊池病があり, 女性で自己免疫関連疾患の併存があると, オマリズマブの有効性が担保できない可能性がある.

### 一言コメント

「治療前に各種自己抗体の有無を調べておく必要があるかもしれないということと, 逆に治療が有効でない場合には自己抗体の有無を確認する必要があるということ.」